

「青少年を地域で讃える賞」を受賞

平成29年12月9日（土）に神戸市須磨区の区役所において「第18回青少年を地域で讃える賞」の表彰式が執り行われ、須磨区青少年育成協議会より神戸女子大学の学生消防団とスポーツ吹矢同好会の山下 茉莉さんが表彰されました。

団体 学生消防団 社会部門

平成22年に神戸市の消防団条例が改正され、学生が通学地の消防団に入団することが可能になりました。神戸女子大学では、早速この年に学生消防団が結成され、4名の学生消防団員が誕生しました。以後、ほぼ毎年、学生が消防団に入団し現在11名の学生が学生消防団に所属しています。当時の3年生5名が表彰を受けました。

学生消防団員は、放水訓練や消火器・ポンプ操作の訓練を受け応急手当を学び、地域の防火・防災の啓発活動や地域のイベントで会場内警備・駐輪場整備に活躍しています。主な活動イベントとしては、神戸市立須磨離宮公園「神戸まつり 須磨音楽の森」、須磨海岸「須磨ビーチフェスタ」、神戸総合運動公園「須磨区防災福祉コミュニティ大会」、メリケンパーク「神戸市消防出初式」があげられます。

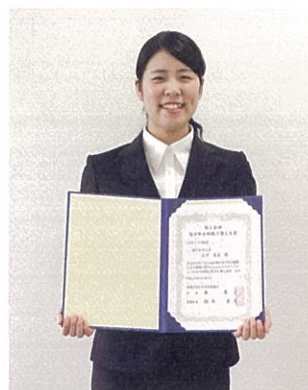
また、大学内の防火・防災訓練にも協力し、指導的な役割を果たしています。



個人 山下 茉莉さん スポーツ部門

山下 茉莉さん（家政学部家政学科）は、3年生（当時）で出場した平成29年5月27日（土）開催の第9回スポーツ吹矢兵庫県大会 女子の部6メートルで優勝。同年9月22日（金）のスポーツ吹矢近畿ブロック大会の同部門で1位と同点となり、1位決定戦の末、惜しくも2位となる成績を収めました。

腹式呼吸と胸式呼吸を順に使い、いっぱい吸った空気を勢いよく腹筋を使って吹くという「スポーツ吹矢式呼吸法」は、精神集中、血行促進の効果や誤嚥性肺炎の予防にもなると話題になっているスポーツです。ひとり暮らしの高齢者を招いて給食サービスをする「ふれあい給食」でも山下さんはその腕前を披露し、スポーツ吹矢の普及にも努めています。



「青少年を地域で讃える賞」とは この賞は、神戸市須磨区内の青少年で、社会、スポーツ、文化等の各分野で活躍する者を他の青少年の範として、また地域の誇りとして讃えることにより、本人のより一層の活躍とこれに続く青少年へ夢と希望を与え、地域ぐるみの青少年健全育成に寄与することを目的としている

学生考案

「白玉味噌汁」が「明石新のり恵方巻まつり」で大好評

神戸女子大学健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科の3年生（当時）高山愛さんが、平成30年1月28日（日）に明石魚の棚商店街中央青空楽市で開催された「明石新のり恵方巻まつり」（明石新のり・恵方巻まつり実行委員会が主催）で無料提供された「白玉味噌汁」を考案しました。

このイベントで、明石市市民生活局健康医療室は明石のりを使った新しい健康メニューを市民に提供し、健康診断への関心を高めるパンフレットも一緒に配付する活動を実施。その健康メニューを考えてほしいという要望が給食・栄養管理学を研究している佐藤 誓子准教授の研究室に寄せられ、地産地消を卒論研究のテーマにしている高山さんがメニューを考えることになりました。

高山さんは、明石のりを使った数種類のメニューを考案。その中で「白玉味噌汁」が当日のメニューに選ばれました。味噌汁に入っている団子は白玉粉と絹ごし豆腐を混ぜたものと、それに地元特産の「明石のり」のパウダーをたっぷり入れたものの2種類です。

当日は厳しい冷え込みの中、早朝から、高山さん、佐藤准教授、同じゼミの応援の学生、同学部の助手の4名が明石市職員の方と協力し、200人分の「白玉味噌汁」を調理。11時からの配付開始前にはすでに行列ができ、大好評で予定の時間を待たずに配付は終了となりました。

高山さんは現在、明石の特産のタコや神戸市の農産物を使ったレシピも考え、地産地消の研究を進めています。



「白玉味噌汁」と粉のりが入った団子（右）

「白玉味噌汁」のレシピ入りの健診を勧めるパンフレット



佐藤誓子准教授（左）の卒論研究の指導を受ける高山愛さん



「白玉味噌汁」を調理する高山さんと応援の橋本楓さん（右）



「白玉味噌汁」を手に記念撮影。右から佐藤准教授、川崎朝子助手、高山さん、橋本さん

学生消防団員 神戸市須磨区 優良団員表彰

平成30年2月3日（土）に举行された神戸市須磨区防災表彰式で、3年生（当時）の文学部教育学科の金納 美海さんと家政学部家政学科の梅田 綾美さんが地域防災への貢献により優良団員として表彰されました。

金納さんと梅田さんは1年生から消防団に入団し、これまでの3年間、地域の防災活動や啓蒙活動に積極的に参加しました。二人は神戸市の応急手当普及員の資格を取得し、迅速な救命処置の普及を目指す活動も積極的に行っています。

学生消防団員として活躍するのは、あと1年足らずの期間となりましたが、これまでの経験を生かして今後も地域の防災に尽力していく決意をしています。

